

CentreCOM® 3612L リリースノート

この度は、CentreCOM 3612L をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 1.4PL0

2 本バージョンで追加された項目


ソフトウェアバージョン 1.3PL0 から 1.4PL0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

SNMP パケットによるアタックなど、脆弱性に対して強化しました。

3 バージョン 1.3PL0 で追加された項目

ソフトウェアバージョン 1.2PL0 から 1.3PL0 へのバージョンアップにおいて、下記の項目が追加されました。

3.1 「SNMP マネージャアドレス」オプション設定数の追加

 ユーザーマニュアル 6-21 ページ「ネットワークパラメータ」

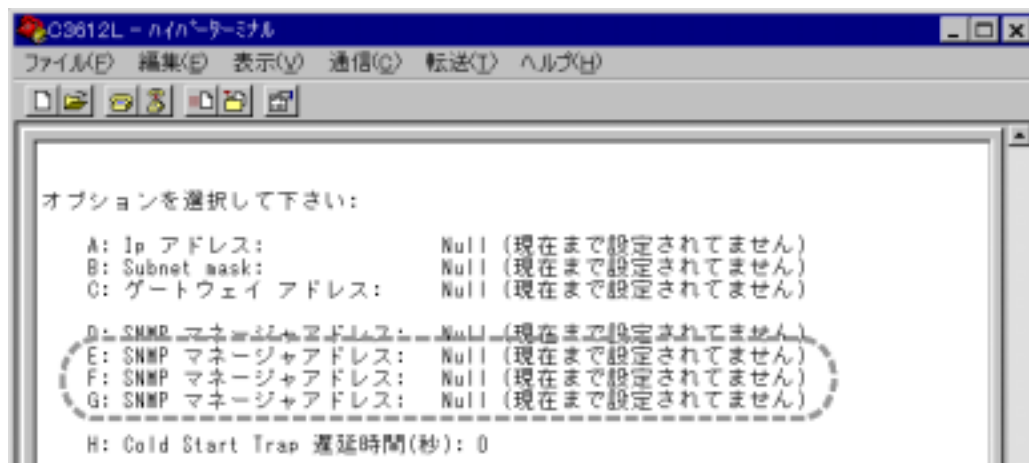
Trap メッセージを受け取る SNMP マネージャを 4 つまで設定できるように、「SNMP マネージャアドレス」オプションが 3 つ追加されました。

場所:

「メインメニュー」 「A: 管理情報 (Administration)」 「N: ネットワークパラメータ」

オプション名:

「E ~ G: SNMP マネージャアドレス」



注意

1.2PL0以前のソフトウェアがインストールされている本製品に対して、1.3PL0以降のソフトウェアをダウンロードした場合、ダウンロード前のSNMPマネージャアドレスの設定は引き継がれませんので、再度設定しなおしてください。


「ネットワークパラメータ」画面に「E ~ G: SNMP マネージャアドレス」オプションが追加されたため、ユーザーマニュアルに記述されている、先頭の文字が「E ~ J」のオプションは、それぞれ先頭の文字が「I ~ N」へと変更されます。また、ソフトウェアバージョン 1.0PL1 で追加された「E: Cold Start Trap 遅延時間(秒)」オプションは「H: Cold Start Trap 遅延時間(秒)」となります。

3.2 SNMP RFC1213 MIBオブジェクト[SystemUpTime]の値が正しく表示されない場合がありますでしたが、これを修正しました。

4 バージョン 1.2PL0 で追加された項目

ソフトウェアバージョン 1.0PL1 から 1.2PL0 へのバージョンアップにおいて、下記の項目が追加されました。

4.1 ポートステータス「MAC アドレス」表示項目の追加

 ユーザーマニュアル 6-4 ページ「2 ポートステータス」

マネージメントソフトウェアに、各ポートで検出された最新の MAC アドレスを保持し、表示する機能が追加されました。

場所:

「メインメニュー」 「P: ポートステータス」

項目名:

「MAC アドレス」

内容:

ポートごとに最後に検出された MAC アドレスを表示します。


ポートで新しい MAC アドレスが検出されるたびに、その内容が動的に反映されます。



注意

ポート 13 (AUI ポート) の「MAC アドレス」は表示されません。

4.2 Hub 統計情報 / 個々のポート情報「ソースアドレスの変更」項目の追加

 ユーザーマニュアル 6-9 ページ「3 Hub 統計情報」
6-14 ページ「4 個々のポート情報」

マネージメントソフトウェアに、本体全体、または各ポートで検出されたMACアドレスの変更回数をカウントし、表示する機能が追加されました。

場所:

- 「メインメニュー」 「H: Hub 統計情報」
- 「メインメニュー」 「H: Hub 統計情報」 「H: Hub 全体」
- 「メインメニュー」 「I: 個々のポート情報」

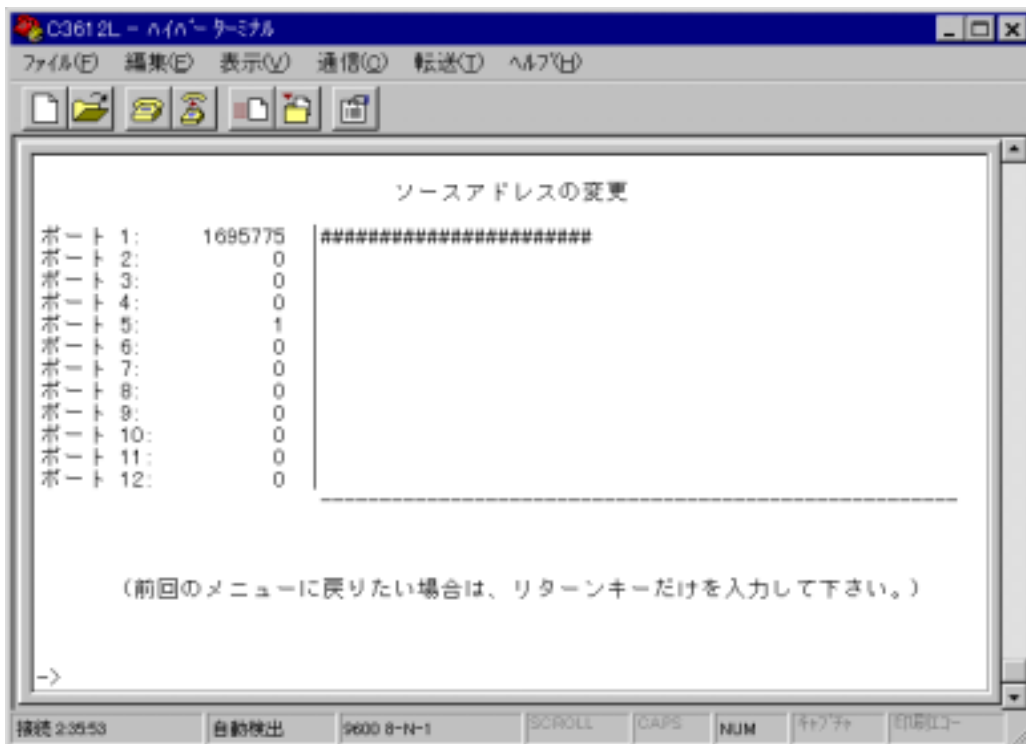
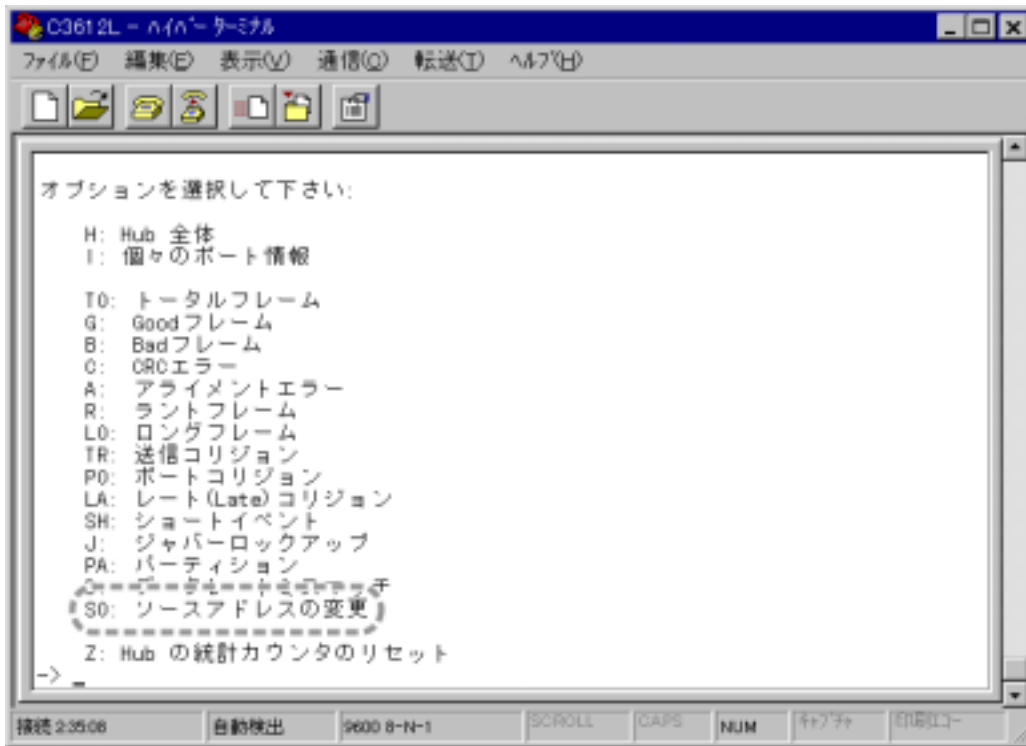
項目名 / オプション名:

「ソースアドレスの変更」 / 「SO: ソースアドレスの変更」

内容:

本体全体、またはポートが最後に検出したMACアドレスと異なるMACアドレスを検出した回数をカウントして、グラフ表示します。
過去に一度検出したMACアドレスでも、最後に検出したMACアドレスと異っていれば、カウントされます。

「メインメニュー」 「H:Hub 統計情報」(本体全体 ポート別)




「メインメニュー」 「H:Hub 統計情報」 「H:Hub 全体」(本体全体 項目別)



「メインメニュー」 「1:個々のポート情報」(ポート 項目別)



4.3 「他システムへの ping」オプションの追加

 ユーザーマニュアル 6-17 ページ「5 管理情報(Administration)」

マネージメントソフトウェアのメニュー内に、Pingプログラムを使用して、ネットワーク上の他のシステムの通信テストを行うためのオプションが追加されました。

場所:

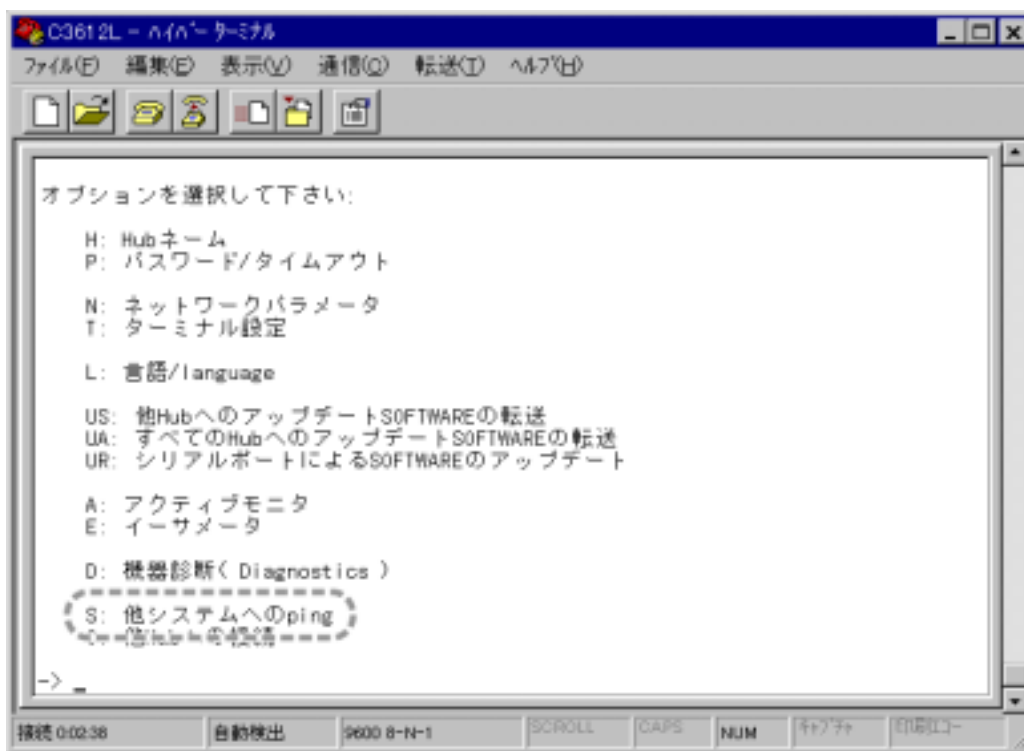
「A:管理情報(Administration)」

オプション名:

「S:他システムへの ping」

内容:

指定したシステムに対して、ICMP エコーリクエストを 5 回まで送信します。



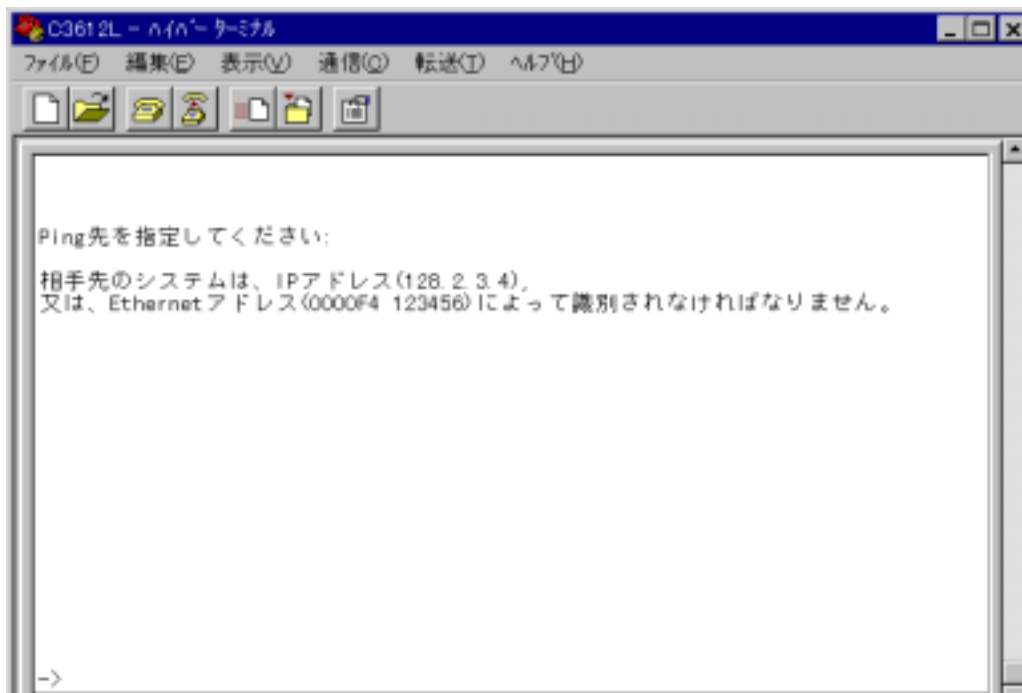
設定方法：

Sを入力して[Enter]キーを押すと、次の画面が表示されます。

同一ネットワーク上のシステムをIPアドレス、またはEthernetアドレス(MACアドレス)で指定します。

すぐに、ICMP エコーリクエストの送信が開始され、結果が画面表示されます。


テストが終了するすると、画面に「Ping完了」と表示されます。



5 バージョン 1.0PL1 で追加された項目

ソフトウェアバージョン 1.0PL0 から 1.0PL1 へのバージョンアップにおいて、下記の項目が追加されました。

5.1 「Cold Start Trap 遅延時間」設定オプションの追加

 ユーザーマニュアル 6-21 ページ「ネットワークパラメータ」

マネージメントソフトウェアのメニュー内に、Cold Start Trap 遅延時間を設定するためのオプションが追加されました。

場所:

「メインメニュー」 「A: 管理情報 (Administration)」 「N: ネットワークパラメータ」

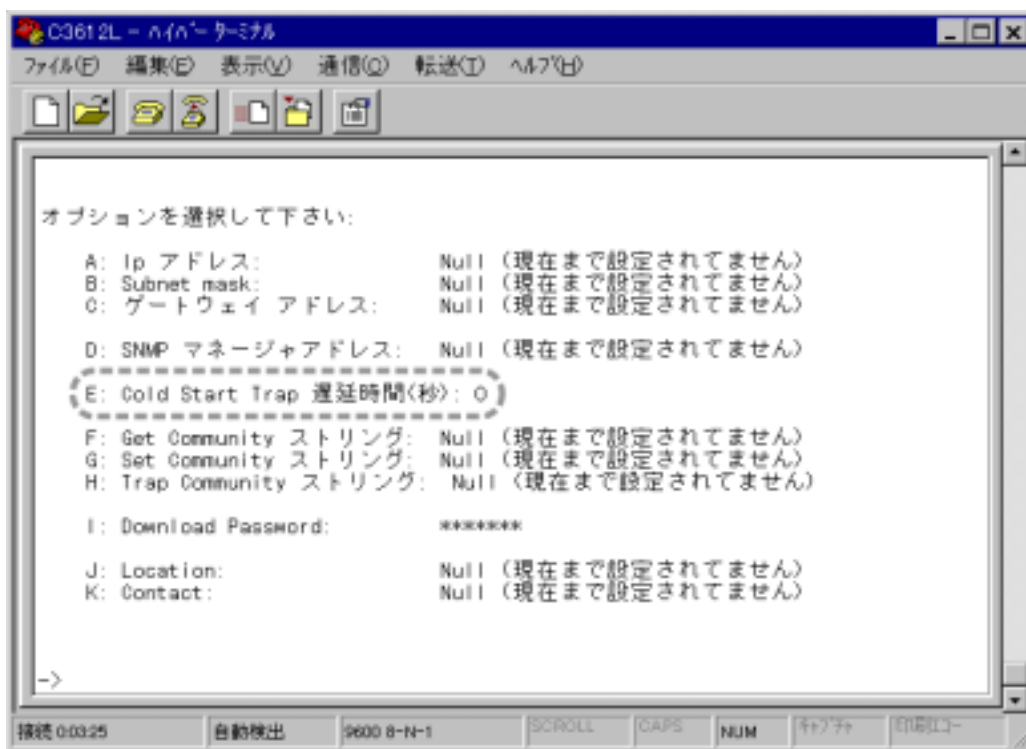
オプション名:

「E: Cold Start Trap 遅延時間 (秒)」

内容:

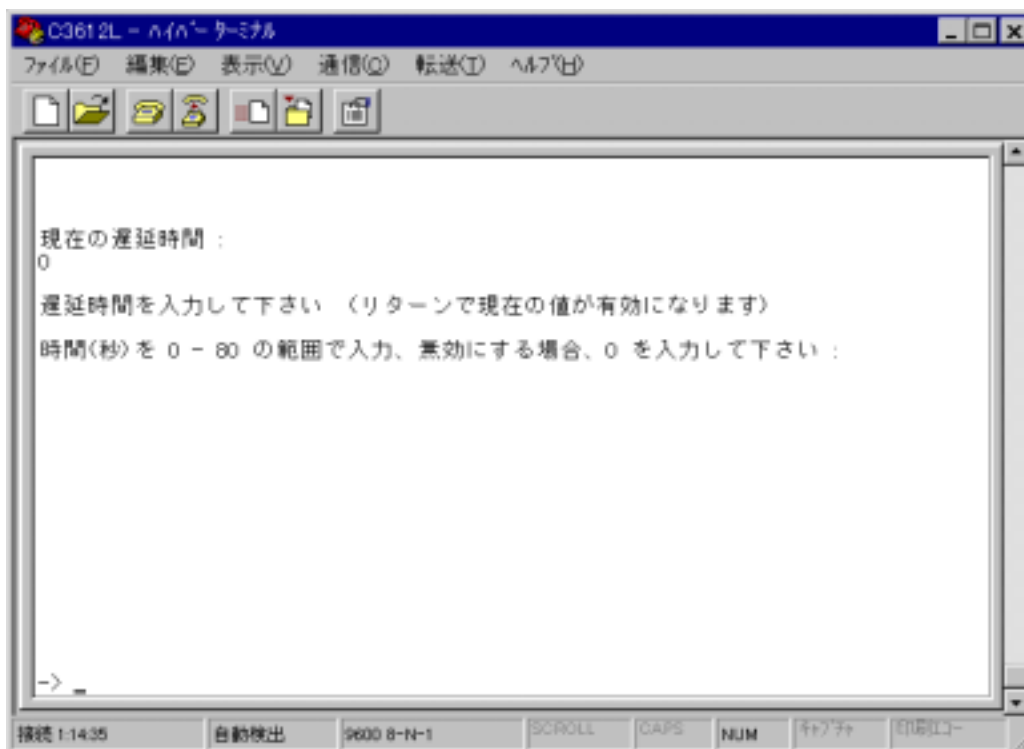
本体を起動 (リセット) してから、Cold Start Trap を送信するまでの時間 (秒) を設定します。Cold Start Trap は、電源ケーブルを抜き差しするなどして、本体を起動したときに送信される Trap メッセージです。

本製品を他のスイッチとカスケード接続している場合、本製品を起動し、他のスイッチとリンクが確立した直後、Cold Start Trap が SNMP マネージャまで正しく送信されないことがあります。これを回避するために遅延時間を設定し、Cold Start Trap の送信を設定した時間内まで遅らせることができます。



設定方法：

Eを入力して[Enter]キーを押すと、次の画面に「現在の遅延時間」が表示されます。
デフォルトは「0」で、Cold Start Trap の送信を遅延する機能は無効となっています。
機能を有効とするには、遅延時間(秒)を 1 ~ 80 の範囲で入力して、[Enter]キーを押します。
設定はただちに有効となります。

**注意**

「ネットワークパラメータ」画面に「E: Cold Start Trap 遅延時間(秒)」オプションが追加されたため、ユーザーマニュアルに記述されている、先頭の文字が「E ~ J」のオプションは、それぞれ先頭の文字が「F ~ K」へと変更されます。

